☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

丹波新聞　平成２９年７月２７日（木）

温かな明かり灯し15年

道の駅あおがき 「タベ」に子ども大喜び

灯ろうをともした道の駅あおがき（青垣町西芦田）で露店やイベントを楽しむ「道の駅のタベ」（同実行委員会主催）が23日にあった。15年続く夏の催しで、５００弱のろうそくの温かな明かりが揺れるなか、家族連れや子どもたちが買い物やゲームに長い列を作り、思い思いに夏祭りの雰囲気を楽しんだ。

観光協会や商工会が中心になり12年間続け、4年前に関西大学佐治スタジオを中心とする実行委員会に移行した。予算は少なくなり、花火やゲストを招いたイベントなどは行えなくなったものの「灯り」を中心に据え、認定こども園園児らがイラストを描いた行灯を飾り、子どもが参加し、楽しめるイベントにと変えていった。

15年目の今年は、地元の認定こども園あおがき、隣町の福知山市の保育園のほか、認定こども園さちよも行灯に協力した。あおがきのてらにしももかちゃんは、「ばれりーなになりたい」と書き、女の子のイラストを添えていた。

灯りがともされた行灯をながめる親子連れら＝青垣町西芦田で

子どもでごったがえす商工会青年部のゲームコーナー

中高生の交流も活発に

青垣中と氷上西高が協力してゲームコーナーを運営するほか、行灯の組み立てなどボランティアに従事する。商工会青年部青垣支部も、毎年「かたぬき」などのゲームコーナーを運営。景品を大阪まで仕入れに行き、もうけは少なく子どもたちを楽しませている。足立直人支部長（37）は「こう見ると青垣も子どもがたくさんいる」と汗をぬぐい、芝知希君（青垣小5年）は、流行中のおもちゃハンドスピナーを当て上機嫌。「友達とお店を回れるから楽しい」と喜んでいた。

12年間実行委員長を務めた足立環さん（55）＝同町西芦田＝は「若い人が意見を出し、運営するようになった。中高生の交流も活発になった」と目を細める。足立さんの後を受けた出町慎実行委員長（35）＝同町中佐治＝は「毎年参加してくれる子どもたちがいる。行灯も少しずつ数が増え、思いが広がっているよう」と話していた。